

1. 略歴

1988年4月	東京大学教養学部文科3類入学
1992年3月	東京大学文学部第3類（語学文学）仏語仏文学専修課程卒業
1992年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程（仏語仏文学専攻）入学
1993年10月	ストラスブール第2大学修士課程（近代文学）入学
1994年10月	パリ第7大学高等研究課程入学（～1995年9月 修了）
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科修士課程（欧米系文化研究専攻）修了
1996年4月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程（欧米系文化研究専攻）進学
1996年10月	パリ第7大学博士課程（テキストと資料の科学）入学（～2004年12月）
1996年10月	高等師範学校外国人聴講生（～1997年7月）
1997年4月	日本学術振興会特別研究員（DC2）（～1999年3月）
2000年3月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学
2000年4月	日本学術振興会特別研究員（PD）（～2003年3月）
2005年1月	京都大学人文科学研究所 助教授
2007年4月	京都大学人文科学研究所 准教授
2008年8月	ライデン大学図書館スカリゲル・フェロー
2009年10月	パリ第1大学（哲学科）外国人研究員（～2010年9月）
2012年7月	パリ西大学博士号（仏語仏文学）取得
2019年9月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 学位論文

« Malaise dans l'Europe moderne. Aux origines de l'*Histoire des deux Indes* de Guillaume-Thomas Raynal », thèse soutenue à l'Université Paris Ouest Nanterre La Défense le 4 juillet 2012, 2 vol., 1201 p.

(2) 著書・編著

Eprouver l'universel : Essai de géophilosophie, Paris, Kimé, 1999, 155 p. (Mikhaïl Xifaras との共著・全巻共同執筆)

『現代思想と政治——資本主義・精神分析・哲学』京都大学人文科学研究所／平凡社、2016年、628 p. (市田良彦との共編、京都大学人文科学研究所共同研究成果報告書)

『京都大学人文科学研究所所蔵 中川文庫貴重書目録』京都大学人文科学研究所、2016年、v+45 p. (編著、京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊第9号)

『<ポスト68年>と私たち——「現代思想と政治」の現在』京都大学人文科学研究所／平凡社、2017年、416 p. (市田良彦との共編)

『<68年5月>と私たち——「現代思想と政治」の系譜学』京都大学人文科学研究所／週刊読書人、2019年、274 p. (立木康介との共編)

(3) 批評校訂版編集

Guillaume-Thomas Raynal, *Histoire philosophique et politique des établissements et du commerce des Européens dans les deux Indes*, Fernay-Voltaire, Centre international d'étude du 18^e siècle, t. II, xxii-600 p. (第二巻全体のチェックと第VIII篇 14-17章批評校訂協力)

(4) 論文

「商業の時代の歴史家——レナル／ディドロ『両インド史』紹介（その一）」、東京大学仏語仏文学研究会『仏語仏文学研究』、no. 18 (1998)、p. 21-45

« Diderot en scène, Raynal en coulisse : Réflexion préliminaire à l'étude de l'unité de l'*Histoire des deux Indes* », 東京大学仏語仏文学研究会『仏語仏文学研究』、no. 23 (2001)、p. 113-146

« Histoire et Droit dans l'*Histoire des deux Indes* de Raynal/Diderot », *Zinbun* no. 38 (2005), p. 77-114

« Les failles des savoirs du droit et la vérité de l'histoire philosophique dans l'*Histoire des deux Indes* de G-T. Raynal », dans Mikhaïl Xifaras (éd.), *Généalogie des savoirs juridiques : le carrefour des Lumières*, Bruxelles, Bruylant, 2007, p. 99-131

- « Civilisation et naissance de l'histoire mondiale dans l'*Histoire des deux Indes* de Raynal », *Revue de synthèse*, t. 129, 6^e série, n° 1 (2008), p. 57-83
- 「必然性／偶然性——ルイ・アルチュセールにおけるルソーと啓蒙」、『思想』、no. 1027 (2009年11月号)、p. 172-193
- « La civilisation existe-t-elle dans les deux Indes ? : à propos de la description de l'Inde, de la Chine, du Mexique et du Pérou dans l'*Histoire des deux Indes* », dans Tristan Coignard, Peggy Davis et Alicia Montoya (éd.), *Lumières et histoire*, Paris, Champion, 2010, p. 173-191
- « Nécessité / Contingence : Rousseau et les Lumières selon Louis Althusser », *Lumières* no. 15 (2010), p. 89-111
- 「代表制・公論・信用——『両インド史』の変貌とレナル、ネッケル、ディドロ」、富永茂樹編『啓蒙の運命』、名古屋大学出版会、2011、p. 39-73
- « Représentation politique, Opinion publique et Crédit : les réformes de la Compagnie des Indes et de la monarchie française selon Raynal/Necker », *Zinbun*, no. 42 (2011), p. 111-129
- « Raynal, Necker et la Compagnie des Indes : quelques aspects inconnus de la genèse et de l'évolution de l'*Histoire des deux Indes* », dans Gilles Bancarel (éd.), *Raynal et ses réseaux*, 2011, p. 105-181
- « Quand un mémorialiste entre dans l'histoire : à propos de la réception des *Mémoires* du cardinal de Retz chez quelques historiens français du XVIII^e siècle », dans Shojiro Kuwase, Makoto Masuda et Jean-Christophe Sampierri (éd.), *Les destinataires du moi : altérités de l'autobiographie*, Dijon, Éditions universitaires de Dijon, 2012, p. 49-61
- 「起源の二重化——アルチュセールのルソー『人間不平等起源論』読解 (一九七二)」、『現代思想』、vol. 40-13 (2012年10月号)、p. 86-101
- 「Multitude/Solitude——マキアヴェッリをめぐるネグリ、ポークック、アルチュセール」『現代思想』、vol. 41-9 (2013年7月号)、p. 129-143
- 「一般意志の彼方へ——「諸意志の協調」とディドロ晩年の政治的思考」、『思想』、no. 1076 (2013年12月号)、p. 49-74
- 「マルク・ブロックの戦場——戦争経験と歴史的学知の変容」、山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『現代の起点 第一次世界大戦』第三巻『精神の変容』、岩波書店、2014、p. 169-190
- « La fin de l'ancien régime en Europe selon l'*Histoire des deux Indes* », dans Antoine Lilti et Céline Spector (éd.), *Penser l'Europe au XVIII^e siècle*, Oxford, Voltaire Foundation, « Oxford University Studies in the Enlightenment », 2014, p. 117-136
- « Premières réceptions d'Althusser au Japon », *La Pensée*, no. 382, Avril/Juin 2015, p. 127-137
- « Raynal auto-compileur : le projet d'une histoire politique de l'Europe moderne — des *Mémoires historiques* à l'*Histoire des deux Indes* », dans Cecil P. Courtney & Jenny Mander (eds.), *Raynal's Histoire des deux Indes: colonialism, networks and global exchange*, Oxford, Voltaire Foundation, « Oxford University Studies in the Enlightenment », 2015, p. 121-136
- « Un événement singulier, ou le « romanesque » en marge de l'histoire. À propos des aventures des flibustiers dans l'*Histoire des deux Indes* de Raynal/Diderot », dans Noriko Taguchi (éd.), *Comment la fiction fait l'histoire : emprunts, échanges, croisements*, Paris, Champion, 2015, p. 53-68
- 「マキアヴェッリとポスト六八年の政治的〈構成〉の諸問題」、市田良彦・王寺賢太編『現代思想と政治——資本主義・精神分析・哲学』平凡社、2016年、p. 91-121
- 「いとも厳密で継続的な検討——ベールと「迷える良心の権利」」『仏語仏文学研究』(東京大学仏語仏文研究会編) 49号、2016年、p. 107-122
- 「「non-lieu」一步前——一九六〇～七〇年代日本のアルチュセール受容」、市田良彦・王寺賢太編『<ポスト68年>と私たち』平凡社、2017年、p. 337-371
- « L'opinion publique selon Raynal : Du *Mercure de France* à l'*Histoire des deux Indes* », dans Antonella Alimento et Gianluigi Goggi (éd.), *Autour de l'abbé Raynal : Genèse et enjeux politiques de l'Histoire des deux Indes*, Fernay-Voltaire, Centre international d'étude du 18^e siècle, 2018, p. 19-32
- 「京大人文研のアルチュセール」、王寺・立木編『<68年5月>と私たち——「現代思想と政治」の系譜学』、京都大学人文科学研究所／週刊読書人、2019年、p. 205-230.
- « Par-delà la volonté générale. Le 'concert de volontés' selon le dernier Diderot », dans Marie Leca-Tsiomis et Ann Thomson (éd.), *Diderot et la politique, aujourd'hui*, actes du colloque international à l'Université Paris Ouest Nanterre, les 7-8 novembre 2013, Paris, Société Diderot, collection « L'Atelier », 2019, p. 25-43.
- « L'utopie barrée : à propos des missions jésuites du Paraguay d'après l'*Histoire des deux Indes* », dans Lise Andries et Marc-André Bernier (éd.), *L'Avenir des Lumières/The Future of the Enlightenment*, Paris, Hermann, 2019, p. 299-318.
- 「ヘーゲルを模倣するフーコー——『狂気の歴史』のラモアの甥論をめぐる」、『思想』、no. 1145、2019年9月号、p. 42-66.

『『文明化』の方向転換——レナル/ディドロ『両インド史』のパラグアイ布教区叙述をめぐって』、齋藤晃編『宣教と適応——グローバル・ミッションの近世』、名古屋大学出版会

(5) 小論・書評等

「危機の諸相——フランス思想の世紀末」、『週刊読書人』、1997年11月7日号

『モナドの窓——パリ文芸通信』、『週刊読書人』(月1回連載、全49回、1998年1月9日号~2002年4月19日号)

「マイナーな文献学のために」、『一冊の本』、1999年7月号、p.46-48

「記憶しつつ批評すること、それが思考の倫理である」(のちこの部分のみ東浩紀『郵便的不安たち』朝日新聞社、1999年、p.406-417に再録);阿部和重インタビュー「徹底的な染まりやすさへ」、『週刊読書人』、1998年11月13日号

「中上健次、一九八九年」、『中上健次発言集成6』折り込みエッセー、第三文明社、1999年

項目「ヴォルテール」、小林道夫・坂部恵・小林康夫・松永澄夫編『フランス哲学・思想辞典』弘文堂、1999年、p.112-120

項目「ドルバック」、前掲小林(道)・坂部・小林(康)・松永編『フランス哲学・思想辞典』弘文堂、1999年、p.172-175

「人道的で民主的なヨーロッパ?——ヨルグ・ハイダーのオーストリアとヨーロッパ」、『週刊読書人』、2000年3月3日号

柄谷行人インタビュー「資本と国家を超えて」、『週刊読書人』、2000年4月14日号

柄谷行人インタビュー「二十世紀・近代・社会主義」(三宅芳夫と共同)、『NAM生成』、太田出版、2001年、p.119-182

「論理と逆説——「昭和十年前後」における小林秀雄と中野重治についてのノート」、『ユリイカ』、2001年5月号、p.203-217

「<初期>の問題」(『柄谷行人初期論文集』書評)、『週刊読書人』、2002年7月19日号

「一九六八年は一九六八年自身に対して戦争をしている」、桂秀実編『思想読本1968』、作品社、2005年、p.147-153

「日本語に「大人」の作法を——啓蒙再考で他者への配慮」、『京都新聞』、2005年9月20日号

「文学の正統性」(大西巨人著『縮図・インコ道理教』書評)、『週刊読書人』、2005年11月25日号

「マラドーナの栄光と悲慘」(マルセロ・ガントマン、アンドレス・ブルゴ編『マラドーナ!』書評)、『週刊読書人』、2006年7月14日号

『啓蒙のための十章』第1章「21世紀の問いと18世紀の回答」、『京都新聞』、2007年1月30日朝刊(連載全10回)

『啓蒙のための十章』第2章「調和について」(モンテスキュー)、『京都新聞』、2007年2月6日朝刊

『啓蒙のための十章』第3章「歴史について」(レナル/ディドロ)、『京都新聞』、2007年2月20日朝刊

『啓蒙のための十章』第4章「自律について」(カント)、『京都新聞』、2007年2月27日朝刊

『啓蒙のための十章』第5章「弱さについて」(モンテスキュー)、『京都新聞』、2007年3月6日朝刊

『啓蒙のための十章』第6章「齟齬について」(モンテスキュー)、『京都新聞』、2007年3月13日朝刊

『啓蒙のための十章』第7章「希望について」(ヴォルテール)、『京都新聞』、2007年3月20日朝刊

『啓蒙のための十章』第8章「運命について」(ディドロ)、『京都新聞』、2007年3月27日朝刊

『啓蒙のための十章』第9章「ユーモアについて」(ディドロ)、『京都新聞』、2007年4月3日朝刊

『啓蒙のための十章』第10章「経験について」(ゲーテ)、『京都新聞』、2007年4月10日朝刊

「ジャックの膝、ドニーズの太もも」、『新潮』、2007年3月号、p.288-289

項目「ヴォルテール」、松永澄夫編『哲学の歴史8』、中央公論新社、2007年、p.401-429

「鏡の中のキャンディード」(水林章著『「キャンディード」——<戦争>を前にした青年』書評)、『日本18世紀学会年報』、24号(2009年)、p.94-95

「もっと空想を!」(石井洋二郎著『科学から空想へ——よみがえるフリーエ』書評)、『週刊読書人』、2009年7月24日号

座談会「ルソーの不在、ルソーの可能性」(吉岡知哉・坂倉裕治・桑瀬章二郎とともに)、『思想』、no.1027(2009年11月号)、p.8-44

「フーコー・カント・イート」、『文學界』、2010年7月号、p.200-201

「自己関係性の諸問題」(桑瀬章二郎編『ルソーを学ぶ人のために』書評)、『週刊読書人』、2011年1月14日号

「<社会>の発見——モンテスキュー『法の精神』」、井上俊・伊藤公雄編『政治・権力・公共性』、世界思想社、2011、p.3-12

『脱原発「異論」』(市田良彦・小泉義之・桂秀実・長原豊との座談会、所収エッセーとして「震災、原発、右往左往」p.170-177)、作品社、2011年、216p.

「なぜ「異論」なのか——金森修氏の批判に答える」、『週刊読書人』、2012年2月24日号

「日本社会の構造変革のために」(湯浅誠との対談)、『週刊読書人』、2012年5月18日号

「<Corps>の所在——大橋完太郎『ディドロの唯物論』書評」、『思想』、no.1019(2012年7月号)、p.109-121

- 「No hay caminos, hay que caminar ——日本の「第三の道」への疑問」、『情況別冊 思想理論篇』、no. 1 (2012年12月号)、p. 45-75
- 「私たちはいつでも逸脱できる——フーコー『カントの人間学』の射程」(インタビュー)、『Art Critique』、no. 3 (2013年1月号)、p. 107-138
- 「今、デイドロを読むために」(逸見龍生、田口卓臣との鼎談)、『思想』、no. 1076 (2013年12月号)、p. 6-48
- 「メディア時評」、『毎日新聞』全国版、2014年2月1日・3月1日・3月29日・4月26日朝刊
- 「ロシア十月革命がもたらした衝撃」、『図書新聞』、2014年3月8日号(のち「ロシア十月革命の衝撃」と改題の上、藤原辰史編『第一次世界大戦を考える』京都大学人文科学研究所/共和国、2016年、p. 232-234 に再録)。
- 「曖昧な中間地帯の方へ」(蓮實重彦著『「ボヴァリー夫人」論』書評)、『文學界』、2014年7月号、p. 181-183
- 「ロシア革命 大衆活気づける一瞬の輝き」、『京都新聞』、2015年2月21日号朝刊(のち「世界を変革した社会主義の「実験」」と改題の上、藤原辰史編『第一次世界大戦を考える』京都大学人文科学研究所/共和国、2016年、p. 31-33 に再録)
- 「アルチュセール再考」(市田良彦との対談)、『週刊読書人』、2015年5月15日号
- 「共同討議 いま、現代思想と政治を問い直す」(京都大学人文科学研究所における市田良彦・王寺賢太編『現代思想と政治』合評会部分再録)、『週刊読書人』、2016年4月22日号
- 『徹底討論 市田良彦・王寺賢太編『現代思想と政治』@京大人文研』(共著、e-book)、週刊読書人社刊、2016年、166 p.
- 「凡庸さ」とその分身たち——蓮實重彦『凡庸な芸術家の肖像』覚え書き、『ユリイカ』、2017年10月臨時増刊号、p. 96-105
- « Esprit de commerce, esprit des Lumières ? », compte rendu de Hisayasu Nakagawa, *L'Esprit des Lumières en France et au Japon* (Paris, Champion, 2015), dans *Zinbun*, no. 48, p. 34-48 (avec la « Présentation » du « Dossier spécial : Être Dix-huitiémiste en Asie de l'Est », p. 33)
- 「戦後民主主義の「革命的な」批判のために」、桂秀実著『革命的な、あまりに革命的な——「1968年の革命」史論』増補文庫版解説、ちくま学芸文庫、2018年、p. 526-547
- 「脱成長主義 佐伯啓思さんが王寺賢太さんと語る」、『京都新聞』、2018年5月30日号・5月31日号
- 「<68年>から現在を問う」、「京大人文研90年の学知」第3回、『京都新聞』2019年7月18日号

(6) 翻訳

- ポール・ヴィリリオ「絶対速度を現実化するという快挙の影には世界の喪失があるのです」(東浩紀との共同インタビュー)、浅田彰監修『芸術と科学の対話』、NTT出版、1997年、p. 202-221
- レミ・ブラーグ「ストア派の狂人」、カトリーヌ・マラブー編、高橋哲哉・高桑和巳・増田一夫監訳『デリダと肯定の思考』、未来社、2001年、p. 80-93
- ロジェ・ラポルト「自分が話すのを聞く」、前掲マラブー編、高橋・高桑・増田監訳『デリダと肯定の思考』、未来社、2001年、p. 186-198
- セルゲイ・カルプ「十八世紀における『両インド史』のロシア語訳——『中国人についての政治的考察』を例として」、中川久定/ヨヘン・シュローバ編『十八世紀における他者のイメージ——アジアの側から、そしてヨーロッパの側から』、河合文化教育研究所、2005年、p. 183-198
- ハンス＝ユルゲン・リューズブリンク「批評家と歴史家としての翻訳者——『両インド史』のドイツ語訳における中国と日本の表象について」、前掲中川/シュローバ編『十八世紀における他者のイメージ』、p. 199-214
- ドニ・デイドロ『運命論者ジャックとその主人』(田口卓臣との共訳)、白水社、2006年、361 p.
- アントニオ・ネグリ『政治論 あるいは近代的民主政の定礎』、別冊情況『一九六八年のスピノザ——アントニオ・ネグリ《野生のアノマリー》の世界』、情況出版、2009年、p. 52-69
- ミシェル・フーコー『カントの人間学』、新潮社、2010年、235 p.
- フィリップ・ソレルス「幸福なデイドロ」(田口卓臣との共訳)、『思想』、no. 1076 (2013年12月号)、p. 3-5
- ドニ・デイドロ「ある哲学者の書類入れからこぼれた政治的断章」(翻訳・解題)、『思想』、no. 1076 (2013年12月号)、p. 75-104
- ジョルジュ・ベンレカッサ「明証性」の変貌——デイドロとく政治的なもの>の限界」(翻訳・解題)、『思想』、no. 1076 (2013年12月)、p. 105-132
- ジャンルイジ・ゴッジ「雄弁家としての歴史家——『両インド史』冒頭のイメージから」(解題)、『思想』、no. 1076 (2013年12月号)、p. 133-139
- ブリュノ・ベルナルディ「ジャン・ドブリトルソー ——法律、習俗そして人民の『暗黙の教育』」(翻訳・解題)、『ルソーの政治哲学——一般意志・人民主権・共和国』、勁草書房、2015年、240 p.

ルイ・アルチュセール『政治と歴史 エコール・ノルマル講義 1956-1972』（市田良彦との共訳）、平凡社、2015年、558p.

ジャンルイジ・ゴッジ『ドニ・ディドロ、哲学者と政治 自由な主体をいかに生み出すか』（逸見龍生・福田真希・川村文重との共訳、監訳・解題）、勁草書房、2015年、289p.

エティエンヌ・バリバル「大革命の後、いくつもの革命の前」（立木康介・信友建志・廣瀬純との共訳）、市田良彦・王寺賢太編『〈ポスト68年〉と私たち』、平凡社、2017年、p.67-91

(7) 研究発表・講演等

« Histoire et Droit dans l'*Histoire des deux Indes* de Raynal », communication prononcée à la journée d'études « Généalogie des savoirs juridiques : le carrefour des Lumières », au Centre de l'Histoire de la Philosophie moderne, Villejuif, France, le 25 avril 2003

« Autobiographie et Histoire : à propos de la lecture des *Mémoires* du cardinal de Retz par les historiens français du XVIII^e siècle », communication prononcée au colloque international « À qui s'adresse l'autobiographie ? », à l'Institut Franco-Japonais de Kansai, le 15 avril 2005

« La civilisation existe-t-elle dans les deux Indes ? : à propos de la description de l'Inde, de la Chine, du Mexique et du Pérou dans l'*Histoire des deux Indes* », communication prononcée au Séminaire des jeunes chercheurs : « Lumières et Histoire », organisé par la Société internationale des Études Dix-Huitiémistes au Centre d'interprétation de la Place Royale (Québec), le 13 septembre 2006

« Raynal, 'timbalier du parti Necker' ? », communication prononcée au colloque international « L'abbé Raynal (1713-1796) et ses réseaux », à la Bibliothèque Nationale de France (Tolbiac), le 15 décembre 2006

「ジャックの膝、ドニーズの太もも——ディドロ『運命論者ジャックとその主人』における性と語り」、京大大学人文科学研究科夏季講座、2007年7月14日

「ルソーと啓蒙——ルイ・アルチュセールの場合」、立教大学創立百周年記念シンポジウム「ルソー研究の現在——「作品」の臨界」での研究発表、2007年11月10日

« Bilan d'une crise : à propos de la transmission de la culture française au Japon d'aujourd'hui », communication prononcée au colloque international organisé au Département de la culture française à l'Université de Sungyunkwan (Seoul), le 20 novembre 2007

« D'un Empire l'autre : le concept de civilisation et la naissance de l'histoire mondiale dans l'*Histoire des deux Indes* de Raynal », conférence prononcée à la Faculté des Lettres de l'Université Nationale de Seoul, le 21 novembre 2007

« Nécessité/Contingence : Rousseau et les Lumières selon Louis Althusser », conférence prononcée à la journée d'études « Althusser et Rousseau » organisée par le Collège international de Philosophie, à la Fondation Lucien Paye, Cité Internationale de Paris, le 21 mars 2009

「ローマの影」、日本18世紀学会第31回大会（於・多摩美術大学）、共通論題「帝国」セッションでの発表、2009年6月21日

« Représentation politique, Opinion publique et Crédit : les réformes de la Compagnie des Indes et de la monarchie française selon Raynal/Necker », communication prononcée au colloque « L'opinion publique, la presse et les journalistes », au Centre Charles V de l'Université de Paris I-la Sorbonne nouvelle, le 28 novembre 2009

« Raynal auto-compileur : le projet d'une "histoire politique" de l'Europe moderne des *Anecdotes historiques* à l'*Histoire des deux Indes* », communication prononcée au colloque international « Raynal's *Histoire des deux Indes* : Colonial Writing, Cultural Exchange and Social Networks in the Age of the Enlightenment », au Newnham College, Cambridge, le 1^{er} juillet 2010

「代表制・公論・信用——レナル/ネッケルによるインド会社とフランス王国の改革」、社会思想史学会（於・神奈川大学）、「各国・各時代比較による近代ヨーロッパ社会思想史記述の試み」セッションでの発表、2010年10月24日

« Guerres, discipline et patriotisme : la généalogie de l'Europe moderne selon l'*Histoire des Guerres* de Raynal », communication prononcée au workshop « Éditer et (re-)lire l'*Histoire des deux Indes* », au Congrès international de la Société Internationale d'Études Dix-Huitiémistes, à l'Université de Graz, le 29 juillet 2011

「パトリオティズム・ナショナリズム・コスモポリタニズムの根本問題——ルソーをめぐって」、社会思想史学会（於・名古屋大学）、同セッションでの川出良枝・鳴子博子との討論、2011年10月30日

« *Un événement singulier*, ou le 'romanesque' en marge de l'histoire. À propos des aventures des flibustiers dans l'*Histoire des deux Indes* de Raynal/Diderot », communication prononcée au colloque franco-japonais « *Comment la fiction fait l'histoire* », à l'Institut Franco-Japonais de Kansai, le 18 novembre 2011

- 「代表制・公論・信用——レナル／ネッケルによるインド会社とフランス王国の改革」、北海道大学政治学研究会での講演、北海道大学法学研究科、2012年1月19日
- 『国民は血の海のなかでしか再生しない』——ディドロと政治的雄弁の問題」、日本フランス語フランス文学会春季大会（東京大学文学部）、「文学と（複数の政治）——黙秘・主体・デモクラシー」ワークショップでの発表、2012年6月3日
- 「消滅する立法者——モンテスキューとルソーにおける歴史と政治」、「18世紀における〈戦争〉表象と〈平和〉表象の研究」（研究代表者：佐藤淳二）科研グループ研究会「〈消滅する媒介者〉をめぐって」、北海道大学文学研究科、2012年9月23日
- « Par-delà la volonté générale : le ‘concert de volontés’ selon le dernier Diderot », communication prononcée au colloque international « Diderot et la politique, aujourd’hui », à l’Université Paris Ouest Nanterre, le 7 novembre 2013
- 「消え去る立法者——モンテスキュー『法の精神』第6部読解」、「生命統治時代の〈オイコス〉再考とポスト・グローバル世界像の研究」（研究代表者：西谷修）科研グループ研究会、東京外国語大学、2014年1月25日
- 「一般意志の〈構成〉——ディドロ晩年の政治的著作における『諸意志の協調』と議会・公論・歴史」、シンポジウム「来たるべき一般意志——法・主体・フランス革命」での研究発表、立教大学、2014年3月15日
- 「アレントにおける政治と歴史——革命の肯定性と実定性」、大阪府立大学公開講座「ハンナ・アレントとこの時代I」（於・I-site なんば）での講演、2014年9月27日
- « ‘L’heure solitaire de la dernière instance ne sonnera jamais’ : à propos des premières réceptions d’Althusser au Japon dans les années 1960-1970 », communication prononcée au colloque « Louis Althusser », au Centre Gabriel Péri (Paris), le 19 mars 2015
- « L’opinion publique selon Raynal : du *Mercur de France* à l’*Histoire des deux Indes* », communication prononcée au colloque international « *Autour de l’abbé Raynal : genèse et enjeux politiques de l’Histoire des deux Indes* », à l’Université de Pise, le 3 février 2016
- « Overcoming Modernity ? — A Debate on Modernization-Westernization in 1940s’ Japan : Iwao Kôyama’s *Philosophy of the World History and its critics* », conference at the European Institute University, Firenze, 8th February 2016
- « Les lois-rapports et leurs dérivations : à propos du choix philosophique et politique de Montesquieu dans *De l’esprit des lois* (livre I) », conférence à la Faculté des Lettres de l’Université Nationale de Seoul, le 23 mai 2016
- « Esprit du commerce, esprit des Lumières ? — à propos de *L’Esprit des Lumières en France et au Japon* de Hisayasu Nakagawa », communication prononcée au workshop international « Être dix-huitiémiste en Asie de l’Est », à l’Institut de Recherches en Sciences humaines, Université de Kyoto, le 12 novembre 2016
- 「18世紀西欧における国際関係の変動とコスモポリタニズム」、日本18世紀学会大会（於・立教大学）、共通論題「コスモポリタニズム」セッションでの研究発表、2017年6月24日
- 『文明化』の方向転換——イエズス会パラグアイ布教区をめぐる18世紀フランスの神学-政治-経済論争」、人間文化研究機構・国立民族学博物館共同研究「近世カトリックの世界宣教と文化順応」（研究代表者：齋藤晃）での研究発表、2017年9月18日
- 「京大人文研のアルチュセール」、「人文研アカデミー 連続セミナー〈68年5月〉と私たち」での講演、京都大学人文科学研究所、2018年5月31日

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

京都女子大学（2013年～2019年）

(2) 学会・編集委員

日本18世紀学会幹事（2007年～現在）

Diderot Studies 日本通信員（2007年～現在）

『情況別冊 思想理論編』編集委員（2012年～2013年）

Guillaume-Thomas Raynal, *Histoire philosophique et politique des établissements et du commerce des Européens dans les deux Indes* 批評校訂版（Femay-Voltaire, Suisse, Centre international d’étude du 18^e siècle）編集委員会委員（2013年～）および共同ディレクター（2016年～現在）

国際18世紀学会幹事（2015年～現在）

Cromohs (Cyber Review of Modern Historiography, Firenze University Press) Editorial Board メンバー（2014年～現在）

ENCCRE (Édition Numérique Collaborative et CRitique de l’*Encyclopédie de Diderot*), Académie des Sciences (France) 編集チームメンバー（2016年～現在）

(3) その他

KBS 京都放送番組審議会委員 (2017 年～2019 年)